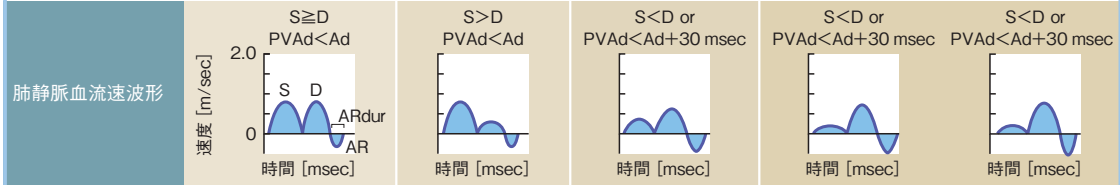
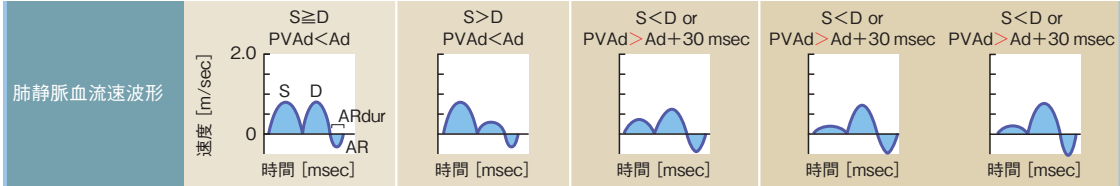


## 『判断力を高める！循環器超音波検査士への最短コース』

## 正誤表

本書におきまして、下記の通り記載内容に誤りがございました。訂正してお詫びいたします。

(2022年12月1日作成, 2025年2月10日更新)

刷	頁	該当箇所		更新日
1～4刷	90	図18の説明	<p><b>誤</b></p> <p>a: 小児のVSD短絡血流である。簡易 Bernoulli 式より求めた圧較差は41mmHgである。収縮期血圧が90mmHgと考えると <math>90 - 41 = 49\text{mmHg}</math>、<u>小児の右房圧を0～5mmHgと考えると右室収縮期圧は49～54mmHgとなるので軽度～中等度の肺高血圧があると推測される。</u></p> <p>b: 成人のVSD短絡血流である。簡易 Bernoulli 式より求めた圧較差は116mmHgである。収縮期血圧が130mmHgと考えると <math>130 - 116 = 14\text{mmHg}</math>、<u>成人の右房圧を5～10mmHgと考えると右室収縮期圧は19～24mmHgとなるので肺高血圧はないと判断できる。</u></p> <p><b>正</b></p> <p>a: 小児のVSD短絡血流である。簡易 Bernoulli 式より求めた圧較差は41mmHgである。収縮期血圧が90mmHgと考えると <math>90 - 41 = 49\text{mmHg}</math>となるので軽度～中等度の肺高血圧があると推測される。</p> <p>b: 成人のVSD短絡血流である。簡易 Bernoulli 式より求めた圧較差は116mmHgである。収縮期血圧が130mmHgと考えると <math>130 - 116 = 14\text{mmHg}</math>となるので肺高血圧はないと判断できる。</p>	2022/12/1
1～4刷	106	「図5 左室拡張障害の重症度分類」のうち、「肺静脈血流速度波形」	<p><b>誤</b></p>  <p><b>正</b></p> 	2025/2/10